

2018年度 第3四半期 決算概要

I. 2018年度 第3四半期 連結業績概要 2018年度 通期 連結業績予想

II. 補足資料

シャープ株式会社

2019年1月30日

【見通しに関する注意事項】

本資料に記載されている内容には、シャープ株式会社及び連結子会社（以下、総称して「シャープ」という）の計画、戦略、業績など将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は過去または現在の事実ではなく、現時点で入手可能な情報から得られたシャープの仮定や判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスク、不確実性及びその他の要因が内在しています。それらの影響により、シャープの実際の業績、事業活動、財務状況は、これらの見通しと大きく異なる場合があります。また、新たな情報、将来の事象、その他にかかわらず、シャープが将来の見通しに関する記述を見直すとは限りません。なお、業績など実際の結果に影響を与えうるリスク、不確実性及びその他の要因としては、以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- (1) シャープの事業領域を取り巻く経済情勢
- (2) シャープの製品やサービスの需要動向の変化や価格競争の激化
- (3) 為替相場の変動(特に、米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替相場)
- (4) 諸外国における貿易規制等の各種規制
- (5) 他社との提携、アライアンスの推進状況
- (6) シャープに対する訴訟その他法的手続き
- (7) 製品やサービスについての急速な技術革新 など

※本資料の記載金額は、億円未満切り捨て表示としています。

※前年増減額等は、表示された億円単位の金額を元に算出しております。

I . 2018年度 第3四半期 連結業績概要 2018年度 通期 連結業績予想

SHARP

1

- ・ 本日はご多忙な中、お集まり頂きありがとうございます。
また日頃は、当社の広報(IR)活動にご協力頂き、まことにありがとうございます。
- ・ それでは、お手許にお配りしておりますパワーポイント資料に沿って、説明いたします。

- 事業環境を勘案し、
上期から継続している「量から質へ」の転換を
さらに推し進める
- 米中貿易摩擦や大手顧客の需要変動などが
売上に影響するなか、
前年同期を上回る最終利益と最終利益率を確保
- 第1四半期からの累計の最終利益率は過去最高

SHARP

2

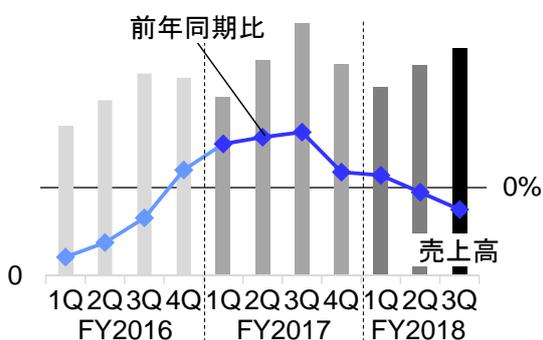
- まず、2018年度 第3四半期の連結業績概要です。
 - 第3四半期は、事業環境を勘案し、
上期から進めている「量から質へ」の転換をさらに推し進めました。
 - その結果、米中貿易摩擦や大手顧客の需要変動などが、
売上に影響するなかにも、
前年同期を上回る 親会社株主に帰属する四半期純利益と利益率を
確保することができております。
- また、4月から12月までの累計の最終利益率は、過去最高となっております。

2018年度 第3四半期 連結業績概要(2)

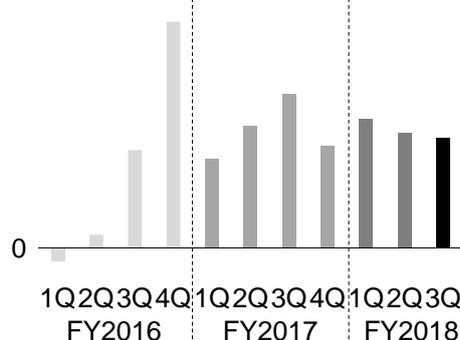
(単位:十億円)

	2017年度	2018年度	
	3Q	3Q	前同比
売上高	714.2	642.5	-10.0%
営業利益	29.7	21.2	-28.6%
経常利益	29.9	18.8	-37.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	20.6 (2.9%)	22.1 (3.4%)	+7.3%
平均為替レート			
ドル円	111.98	111.90	
ユーロ円	131.51	127.28	

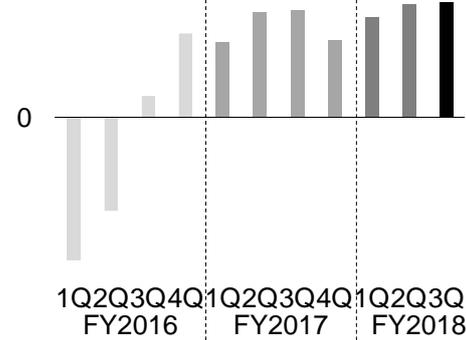
売上高



営業利益



親会社株主に帰属する四半期純利益



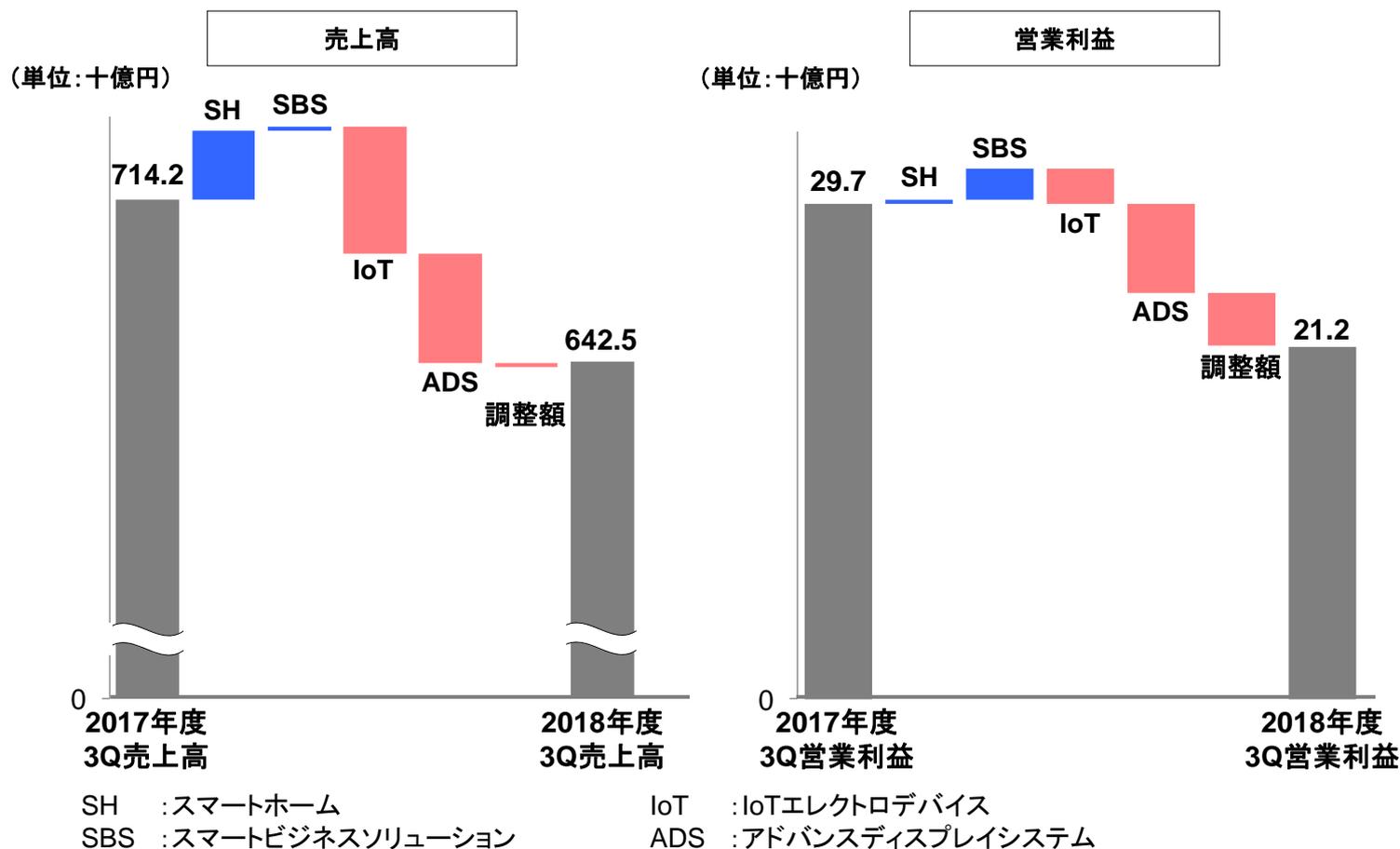
SHARP

3

- ・ 次のスライドに、2018年度 第3四半期の業績数値をまとめております。
- ・ 売上高は、前年同期比 10.0%減の 6,425億円となりました。
- ・ 利益については、
営業利益が、前年同期比 28.6%減の 212億円、
経常利益が、37.3%減の 188億円となりましたが、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、7.3%増の 221億円となりました。

事業環境を勘案し、「量から質へ」の転換を推進したこともあり、
売上が前年同期を下回った第3四半期においても、
最終利益と利益率は前年同期を上回っております。

2018年度 第3四半期 セグメント別増減分析(対前年同期)



SHARP

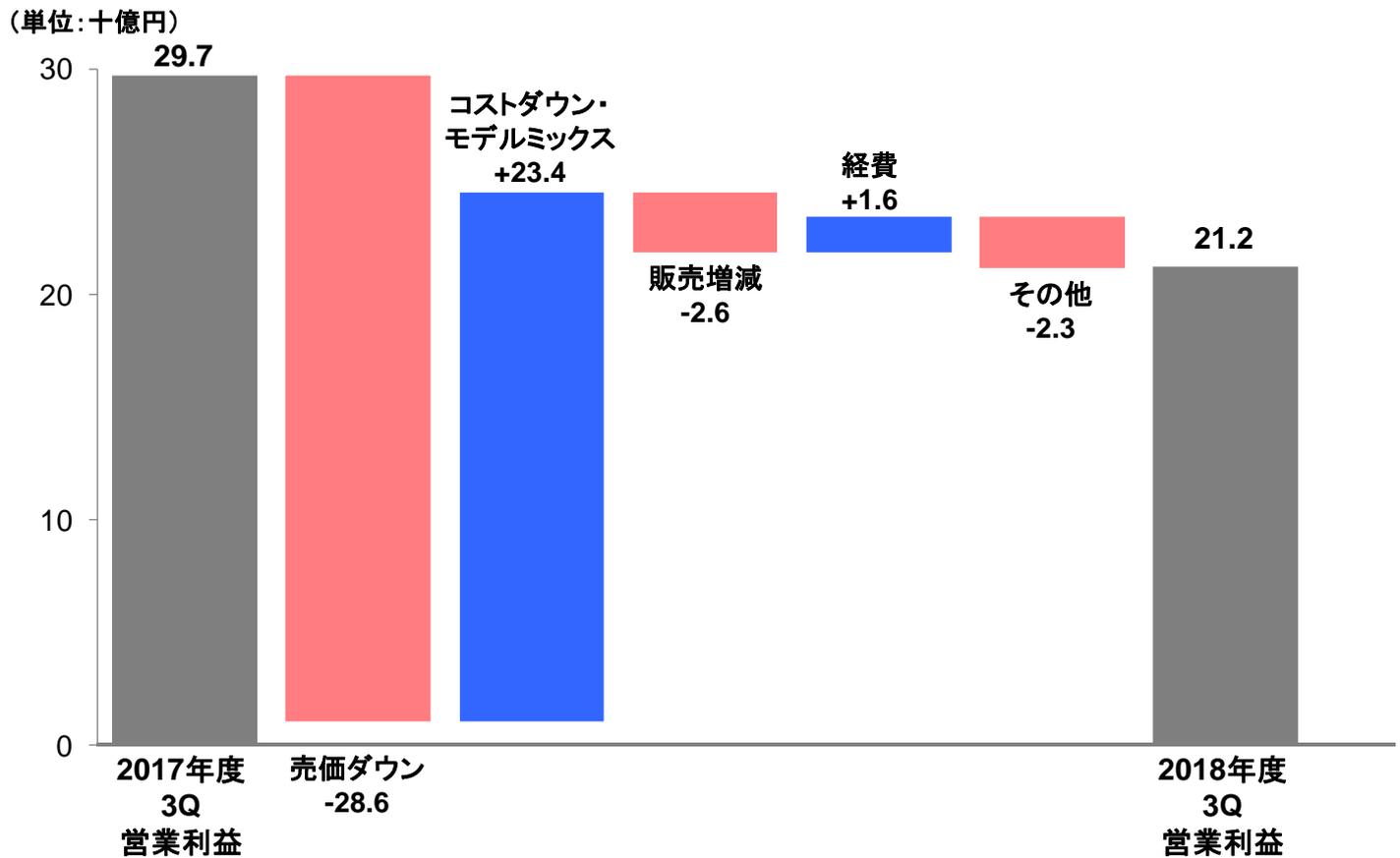
4

・ 次のグラフは、売上高と営業利益の前年同期比でのセグメント別増減分析です。

・ ご覧のとおり、商品部門であるスマートホームとスマートビジネスソリューションが堅調な一方、デバイス事業とテレビ事業に係るIoTエレクトロデバイスとアドバンスディスプレイシステムの2部門が全体を押し下げました。

これは、米中貿易摩擦等によるデバイスの顧客の需要変動や、「量から質へ」の転換に向けた中国でのテレビの販売抑制などによるものです。

2018年度 第3四半期 営業利益増減分析(対前年同期)



SHARP

5

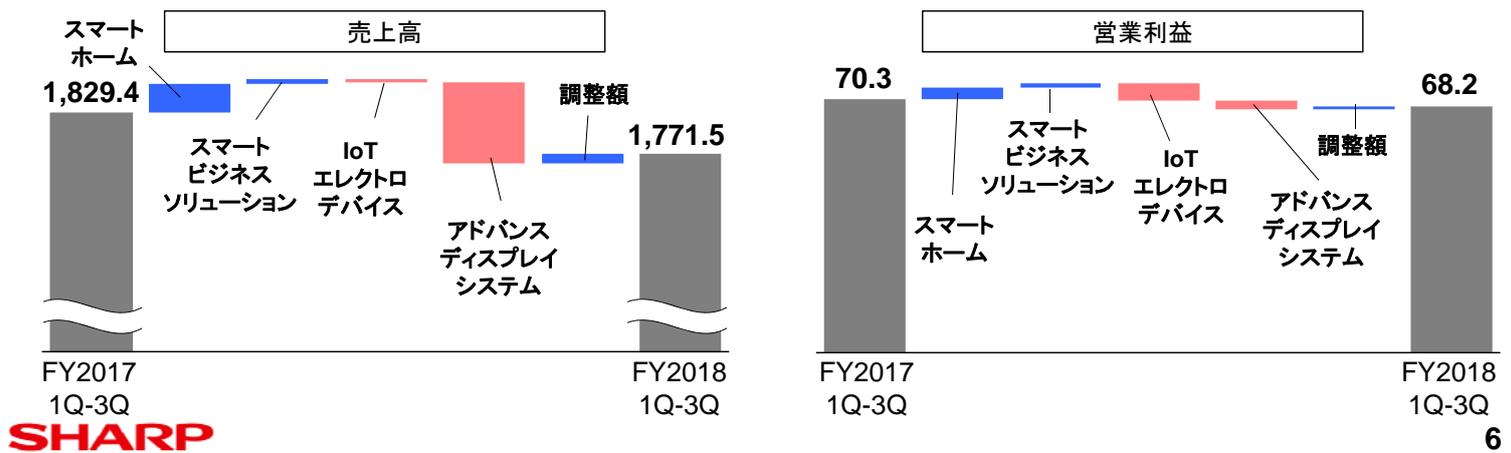
- ・ 次のグラフは、営業利益の前年同期比での増減分析です。
- ・ 当第3四半期の前年同期からの営業利益の変動は、「コストダウン・モデルミックス」による 234億円の利益増や「経費削減」に係る 16億円の収益改善などがあった一方、「売価ダウン」による 286億円の利益減、「販売減」に伴う 26億円の収益影響などがあったことによるものです。

2018年度 第1~3四半期累計 連結業績概要

・第3四半期累計の親会社株主に帰属する四半期純利益率は、第2四半期累計に続き、過去最高

(単位:十億円)

	2017年度	2018年度	
	1Q-3Q	1Q-3Q	前同比
売上高	1,829.4	1,771.5	-3.2%
営業利益	70.3	68.2	-3.0%
経常利益	71.1	62.0	-12.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	55.3 (3.0%)	63.0 (3.6%)	+13.9%
平均為替レート			
ドル円	110.71	110.15	
ユーロ円	127.03	127.99	



6

・次は、2018年度 第3四半期までの累計の業績数値です。

・売上高は、中国でテレビ販売を抑制したことなどから前年同期比 3.2%減の 1兆7,715億円となりました。

・利益については、
営業利益が、前年同期比 3.0%減の 682億円、
経常利益が、12.8%減の 620億円、
親会社株主に帰属する四半期純利益が、13.9%増の 630億円となりました。

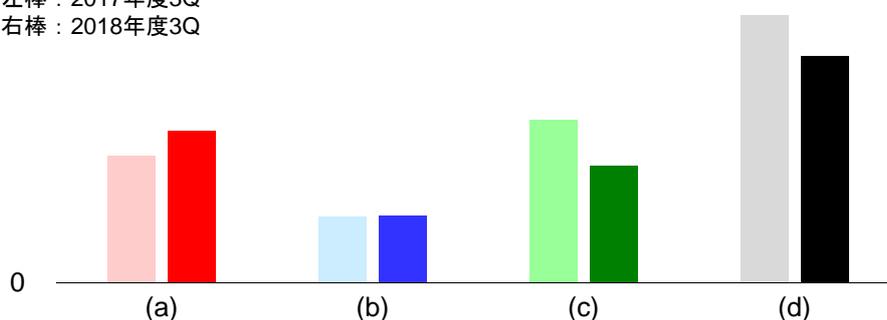
継続的に体質改善を推進している効果もあって、
第1四半期から第3四半期までの累計の最終利益率は、
四半期開示を開始して以来、過去最高となっています。

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度		2018年度					
	3Q	1Q-3Q	1Q	2Q	3Q	前同比	1Q-3Q	前同比
(a) スマートホーム	148.9	439.6	150.5	150.0	178.6	+19.9%	479.2	+9.0%
(b) スマートビジネスソリューション	77.3	231.7	76.5	81.9	79.2	+2.5%	237.7	+2.6%
(c) IoTエレクトロデバイス	192.2	392.7	113.3	137.4	137.7	-28.4%	388.5	-1.1%
(d) アドバンスディスプレイシステム	314.6	836.3	211.1	247.1	267.2	-15.1%	725.5	-13.2%
小計	733.2	1,900.4	551.5	616.6	662.8	-9.6%	1,831.0	-3.7%
調整額	-18.9	-71.0	-17.6	-21.4	-20.3	-	-59.5	-
合計	714.2	1,829.4	533.8	595.1	642.5	-10.0%	1,771.5	-3.2%

左棒：2017年度3Q
右棒：2018年度3Q



※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

7

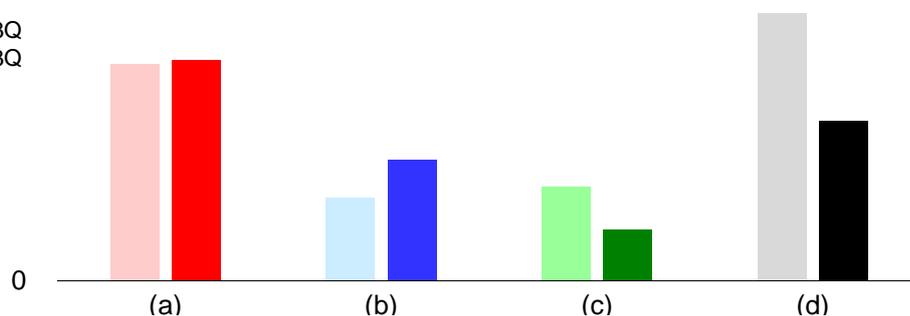
- ・次のスライドは、セグメント別売上高の一覧です。
- ・スマートホームの第3四半期の売上高は、前年同期比19.9%増の1,786億円となりました。エアコンやエネルギーソリューションの海外EPC事業が大きく伸長し、掃除機や洗濯機なども好調でした。そのほか、昨年10月にDynabook株式会社を連結子会社化した効果もありました。
- ・スマートビジネスソリューションは、前年同期比2.5%増の792億円となりました。
- ・IoTエレクトロデバイスは、半導体などが伸長したものの、大手顧客向けのスマートフォン用センサーモジュールやカメラモジュールなどが前年同期を下回り、28.4%減の1,377億円となりました。
- ・アドバンスディスプレイシステムは、中国でテレビの販売を抑制したことや大手顧客のスマートフォン用パネルの需要変動があったことなどから、前年同期比15.1%減の2,672億円となりました。
液晶テレビ事業では、新4K8K衛星放送が始まった国内などで伸長し、販売を抑制した中国向けを除いた売上は、増加しています。
ディスプレイ事業は、スマートフォン用パネルの販売が減少した一方、PC・タブレットなどの中型パネルの販売が増加し、売上が増加しました。

セグメント別営業利益

※()内の数字は営業利益率です。 (単位:十億円)

	2017年度		2018年度					
	3Q	1Q-3Q	1Q	2Q	3Q	前同比	1Q-3Q	前同比
(a) スマートホーム	10.6 (7.2%)	31.1 (7.1%)	11.8 (7.9%)	11.4 (7.6%)	10.8 (6.1%)	+2.1%	34.2 (7.1%)	+9.9%
(b) スマートビジネスソリューション	4.1 (5.3%)	13.8 (6.0%)	3.9 (5.2%)	5.0 (6.1%)	5.9 (7.5%)	+44.4%	14.9 (6.3%)	+8.1%
(c) IoTエレクトロデバイス	4.6 (2.4%)	7.4 (1.9%)	0.6 (0.6%)	-0.3 (-0.3%)	2.5 (1.8%)	-45.4%	2.8 (0.7%)	-62.1%
(d) アドバンスディスプレイシステム	13.1 (4.2%)	29.5 (3.5%)	10.5 (5.0%)	8.4 (3.4%)	7.8 (2.9%)	-40.3%	26.8 (3.7%)	-9.1%
小計	32.6 (4.4%)	81.9 (4.3%)	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	27.2 (4.1%)	-16.5%	78.8 (4.3%)	-3.8%
調整額	-2.8	-11.6	-2.2	-2.3	-5.9	-	-10.6	-
合計	29.7 (4.2%)	70.3 (3.8%)	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	-28.6%	68.2 (3.9%)	-3.0%

左棒：2017年度3Q
右棒：2018年度3Q



SHARP

8

- ・ 続いては、セグメント別営業利益の一覧になります。
各セグメントとも黒字になっております
- ・ スマートホームの営業利益は、前年同期比2.1%増の108億円となりました。
白物家電を中心に販売が増加したことに加え、コストダウンが進んだことなどによるものです。
- ・ スマートビジネスソリューションは、販売が増加したほか、
経費が減少したことなどもあり、前年同期比44.4%増の59億円となりました。
- ・ IoTエレクトロデバイスは、
販売減の影響や、成長投資に伴う償却費の増加などはあったものの、
経費削減やコストダウンの取り組みにより、25億円の黒字となりました。
- ・ アドバンスディスプレイシステムは、
販売の減少や、米中貿易摩擦の影響等による市況の悪化に加え、
有機ELディスプレイの立ち上げ費用などもあるなか、
コストダウンを推進したことなどから、78億円の収益を確保しました。

営業外損益・特別損益・法人税等の概要

(単位:十億円)

	2017年度		2018年度					
	3Q	1Q-3Q	1Q	2Q	3Q	前同 増減額	1Q-3Q	前同 増減額
営業利益	29.7	70.3	24.8	22.2	21.2	-8.5	68.2	-2.1
営業外損益	+0.2	+0.7	-3.5	-0.2	-2.4	-2.6	-6.2	-6.9
内:支払利息	-1.1	-3.6	-1.1	-1.0	-1.1	0.0	-3.3	+0.3
為替差損益	+1.5	+7.2	-4.6	+0.9	-0.7	-2.2	-4.4	-11.6
持分法による投資損益	+1.2	+2.2	-2.3	-0.9	-1.9	-3.1	-5.2	-7.4
経常利益	29.9	71.1	21.2	21.9	18.8	-11.1	62.0	-9.1
特別損益	-0.3	-1.0	+0.8	+0.5	+6.5	+6.8	+7.9	+8.9
内:負ののれん発生益	-	+0.8	-	-	+3.9	+3.9	+3.9	+3.1
税前利益	29.6	70.0	22.1	22.4	25.3	-4.3	69.9	-0.1
法人税等 他	-8.9	-14.6	-2.9	-0.6	-3.2	+5.7	-6.8	+7.8
親会社株主に帰属する 四半期純利益	20.6	55.3	19.2	21.7	22.1	+1.5	63.0	+7.7

SHARP

9

- ・ 次のスライドは、主な「営業外損益」・「特別損益」・「法人税等」の概要です。
- ・ 2018年度 第3四半期についても、「営業外損益」として、「為替差損」や「持分法による投資損失」などはありましたが、前年度同様、大きな営業外損失、特別損失などは発生していません。

連結貸借対照表推移

- ・現預金は、9月末の2,943億円から2,957億円に増加
- ・純資産は、9月末比129億円増の4,446億円となる

(単位:十億円)

	2017年度		2018年度			2017年度		2018年度	
	3月末	9月末	9月末	12月末		3月末	9月末	9月末	12月末
現預金	422.3	294.3	294.3	295.7	支払手形・買掛金	429.4	400.6	400.6	467.4
受取手形・売掛金	471.5	512.7	512.7	540.6	短期借入金	81.2	68.6	68.6	68.3
たな卸資産	219.7	232.6	232.6	278.3	1年内社債	10.0	40.0	40.0	40.0
その他	103.6	109.0	109.0	105.2	その他	312.7	266.7	266.7	269.1
流動資産計	1,217.1	1,148.8	1,148.8	1,220.0	流動負債計	833.4	776.0	776.0	844.9
有形固定資産	428.5	425.2	425.2	419.9	社債	30.0	0.0	0.0	0.0
無形固定資産	44.7	45.3	45.3	43.9	長期借入金	507.0	529.0	529.0	528.6
投資その他資産	217.8	258.7	258.7	278.8	その他	136.2	141.4	141.4	144.3
固定資産計	691.2	729.3	729.3	742.6	固定負債計	673.2	670.4	670.4	673.0
繰延資産	0.0	0.0	0.0	0.0	純資産	401.7	431.7	431.7	444.6
資産合計	1,908.4	1,878.1	1,878.1	1,962.6	負債純資産合計	1,908.4	1,878.1	1,878.1	1,962.6
期末日レート									
ドル円	105.27	112.58	112.58	109.91	自己資本比率	19.8%	21.7%	21.7%	21.6%
ユーロ円	129.08	130.65	130.65	125.38	自己資本	378.3	408.0	408.0	423.2

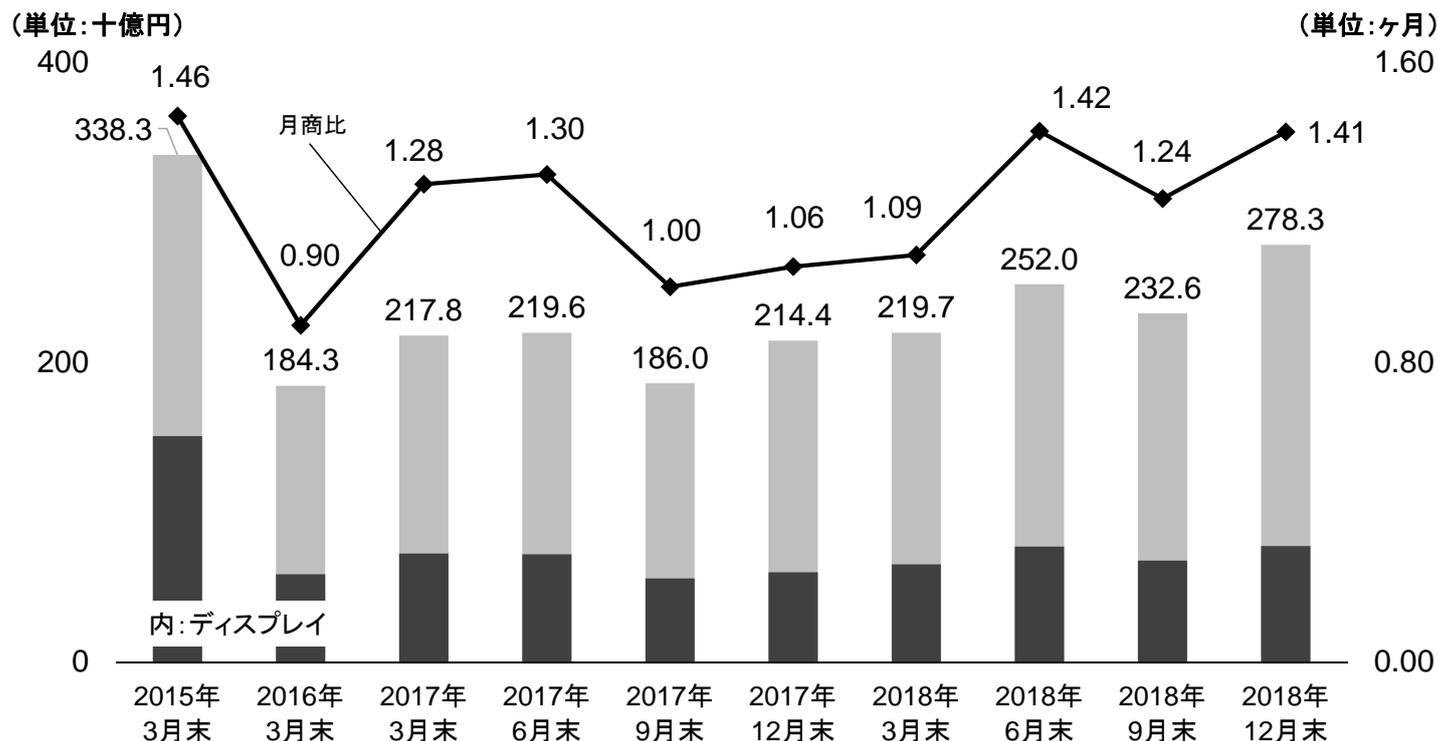
SHARP

10

- ・ 次のスライドは、貸借対照表の推移です。
- ・ 2018年度 第3四半期末の「現預金」は、2018年度 第2四半期末の2,943億円に対し、2,957億円に増加しています。
- ・ 2018年度 第3四半期末の「純資産」は、着実な利益の積み上げにより、2018年度 第2四半期末の4,317億円から、4,446億円へと増加しております。
- ・ なお、「自己資本比率」については、利益の積み上げにより、自己資本が増加する一方、前期比での売上増に伴う売掛金の増加などにより、総資産も増加したことから、第2四半期末比で、ほぼ横ばいとなっております。

たな卸資産の推移

- ・たな卸資産は、Dynabook株式会社(旧:東芝クライアントソリューション株式会社)を連結化した影響などから、2018年9月末の2,326億円に対し、2,783億円に
- ・今後の販売計画等を勘案し、引き続き**適正な在庫水準**を維持



SHARP

11

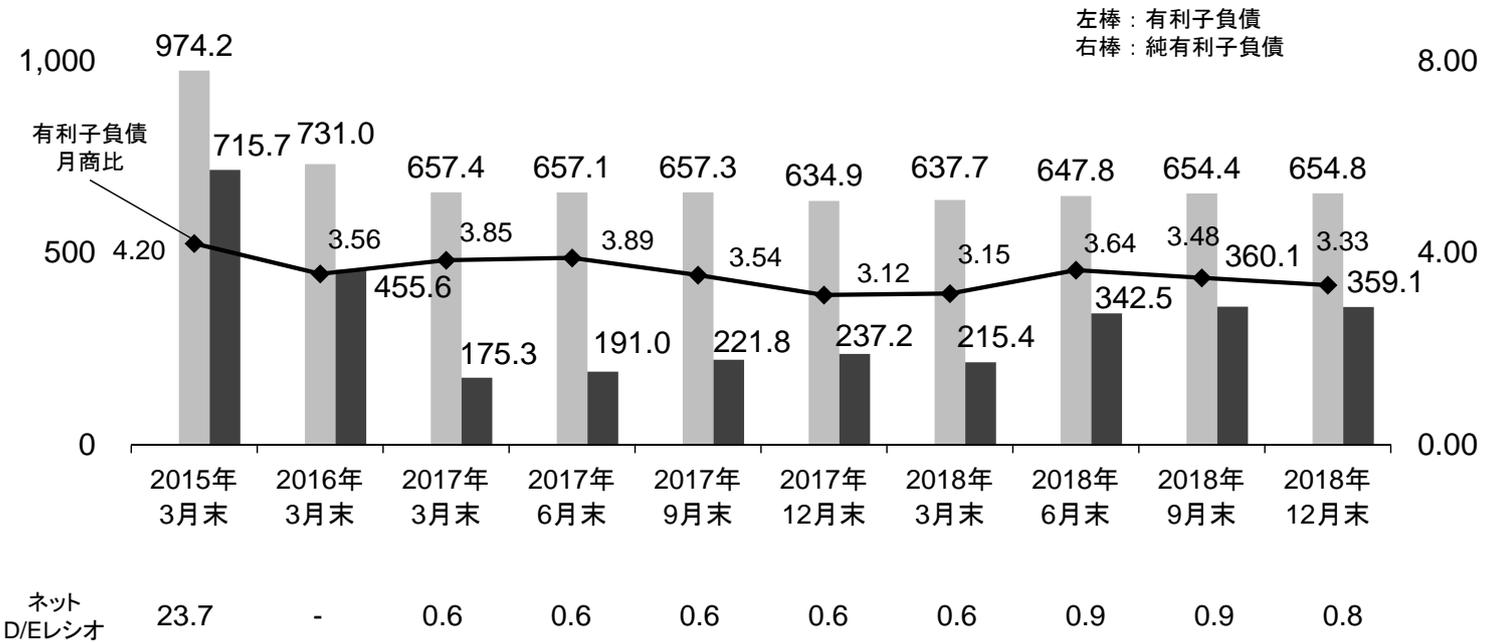
- ・次のスライドは、「たな卸資産」の推移です。
- ・2018年度 第3四半期末の「たな卸資産」は、Dynabook株式会社を連結子会社化したことに加え、米中貿易摩擦等による需要変動が一時的に影響したことなどもあり、2018年度 第2四半期末の2,326億円から、2,783億円に、月商比では1.24ヶ月から、1.41ヶ月になっております。
- ・事業ポートフォリオを鑑み、引き続き適正な在庫水準を維持しておりますが、事業環境が大きく変化するなか、需要動向や販売リスクをこれまで以上に注視し、在庫の管理をさらに強化・徹底してまいります。

有利子負債の推移

- ・2018年12月末の有利子負債は、2018年9月末から、ほぼ横ばいの6,548億円
月商比では3.48ヶ月から3.33ヶ月に減少
- ・純有利子負債※は、3,601億円から3,591億円に減少

(単位:十億円)

(単位:ヶ月)



※純有利子負債: 有利子負債 - 現預金

SHARP

12

・ 次のスライドは、有利子負債の推移です。

・ 2018年度 第3四半期末の有利子負債は、2018年度 第2四半期末の6,544億円から、ほぼ横ばいの6,548億円となっております。

純有利子負債については、現預金が増加したことから、2018年度 第2四半期末の3,601億円に対し、3,591億円に減少しています。

・ 引き続き在庫の適正化や、効率的な設備投資の実施に努め、キャッシュ・フローの改善を図ります。

2018年度 通期 連結業績予想(1)

- 米中貿易摩擦の影響等により
デバイスの顧客需要に変動が生じたことなどから
通期の業績予想を見直す
- 「量から質へ」の転換・体質改善が進んでいることから、
親会社株主に帰属する当期純利益は
10月30日に上方修正した前回予想を達成できる見通し
- 最終利益率は、平成の30年間で過去最高となる見込み

SHARP

13

- 次は、2018年度 通期の連結業績予想です。
- 米中貿易摩擦の影響等により、
デバイスを中心に顧客需要に変動が生じたことなどから
通期の業績予想の見直しを行いました。
- なお、親会社株主に帰属する当期純利益については
「量から質へ」の転換を図っており、体質改善も進んでいることから
上期の決算発表時に上方修正した前回予想を達成できる見通しです。
- 最終利益率については、平成の30年間で過去最高となる見込みです。

2018年度 通期 連結業績予想(2)

- ・米中貿易摩擦の影響などによる需要変動を勘案し、売上高・営業利益・経常利益を見直す
- ・体質改善が進んでいることから、親会社株主に帰属する当期純利益は、前回予想を達成できる見通し

(単位:十億円)

	2018年度					2018年度
	1Q	2Q	3Q	通期予想	前年比	前回 通期予想
売上高	533.8	595.1	642.5	2,500.0	+3.0%	2,690.0
営業利益 (利益率)	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)	107.0 (4.3%)	+18.7%	112.0 (4.2%)
経常利益 (利益率)	21.2 (4.0%)	21.9 (3.7%)	18.8 (2.9%)	96.0 (3.8%)	+7.5%	101.0 (3.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益 (利益率)	19.2 (3.6%)	21.7 (3.7%)	22.1 (3.4%)	90.0 (3.6%)	+28.2%	90.0 (3.3%)

SHARP

14

- ・ 次のスライドは業績予想の数値です。
- ・ 売上高は、前年度比 3.0%増の2兆5,000億円としております。
- ・ 利益は、
営業利益を、前年度比 18.7%増の1,070億円、
経常利益を、7.5%増の960億円、
親会社株主に帰属する当期純利益を、28.2%増の900億円としております。

2018年度 下期における主な取り組み

8KとAIoTを軸に、「量から質へ」転換を進める

欧州

・AQUOS 8Kを筆頭にテレビのラインアップを拡大

中国

・会長の戴が自ら指揮し、「量から質へ」転換を進める
-8KやAIoTを活用したテレビの高付加価値化
-白物家電などテレビ以外の商品ラインアップ拡充

ASEAN

・積極的な事業戦略説明、製品プロモーション推進
・ローカルニーズを捉えた製品の展開
・各国政府との強固な関係構築

国内

テレビ

・新4K8K衛星放送の開始に向け、4Kテレビ、8Kテレビを投入
・AIoT機能を拡充

携帯電話

・自社国内製有機EL採用モデルの商品化

白物家電

・AIoT搭載家電のラインアップを拡大
・機器連携サービスの強化

デバイス

IoTエレクトロデバイス

・長年に亘って培った高い技術力を活かし、複眼化が進むスマートフォン向けカメラモジュール需要を着実に取り込む

ディスプレイ

・シャープ独自のIGZO技術なども活用し、PCやタブレット、車載など中型パネルへのシフトを加速

その他

・Dynabook株式会社の子会社化など

SHARP

15

- ・ 次のスライドは、上期決算でお示した下期における主な取り組みです。
- ・ 現在、当社は継続的な成長のため、「新規事業の創出」「グローバルでの事業展開」「M&Aや協業による社外リソースの取り込み」「競争力の強化」を進めており、下期もこの考えに沿って 様々な取り組みを行っています。
- ・ 第3四半期は、国内で、新4K8K衛星放送に対応したテレビや有機ELスマートフォンを商品化したほか、AIoTクラウドサービス「COCORO WASH」に対応したプラズマクラスター洗濯乾燥機など、AIoT搭載家電を拡充しました。
海外では、中国やマレーシア、ベトナム、シンガポールなどで新製品発表会を行うなど、積極的に事業戦略説明や、製品プロモーションを行いました。
また、Dynabook株式会社を予定通り連結子会社化しました。
このほか、デバイス事業では、顧客需要の変動があるなか、当社の強みを活かすことで、第2四半期を上回るカメラモジュール販売を確保するとともに、ディスプレイの中型シフトを進めることができました。
- ・ こうした取り組みにより、第3四半期の当社の売上は、第2四半期から伸長いたしました。第4四半期は、顧客の需要動向を鑑み、デバイス事業での大きな伸長は見込んでいませんが、第3四半期以降の取り組みの効果に加え、季節要因もあることから、商品事業を中心に、引き続き、前期比で伸長する見込みです。

中長期的な成長の方向性



- ・ 次のスライドをご覧ください。
最後に、中長期的な成長の方向性について、ご説明させていただきます。
- ・ かつて、当社の商品事業の領域は図の左下にあるような、家電機器やオフィス機器が中心でした。
- ・ 現在は、「8KエコシステムとAIoTワールドの構築」「グローバル事業拡大」という重点戦略に沿って、様々な8K関連機器やデバイス、AIoT機器やサービスも開発しており、さらには、これらを融合して、スマートホームやスマートオフィス、スマートファクトリーの創出を進めています。
- ・ こうした方向性のもと、「新規事業の創出」「グローバルでの事業展開」「M&Aや協業による社外リソースの取り込み」「競争力の強化」により事業成長を図るとともに、「技術とブランドに特化した企業」への転換を進めていきます。そして、事業ビジョン「8KとAIoTで世界を変える」を実現してまいります。

Ⅱ.補足資料

- ・ 補足資料として、「セグメント別売上高・営業利益」等の実績をまとめております。
- ・ 当社は、事業環境を勘案し、さらには、今後の成長のため、「量から質へ」の転換を進めています。
これにより、事業拡大を継続するだけでなく、さらなる収益力の強化と財務体質の改善をめざしていきます。

また、本日1月30日には、昨年10月30日にリリースさせていただきました通り、A種種類株式20万株の内、9万2千株を約851億円で取得し、消却しています。

今後とも、こうした取り組みを通じ、株主をはじめ、すべてのステークホルダーの利益の最大化を図ってまいります。
- ・ ご清聴ありがとうございました。

連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期実績	下期差引	通期予想
売上高	1,115.1	1,312.1	2,427.2	1,129.0	1,370.9	2,500.0
営業利益	40.5	49.5	90.1	47.0	59.9	107.0
(利益率)	(3.6%)	(3.8%)	(3.7%)	(4.2%)	(4.4%)	(4.3%)
経常利益	41.1	48.1	89.3	43.2	52.7	96.0
(利益率)	(3.7%)	(3.7%)	(3.7%)	(3.8%)	(3.9%)	(3.8%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	34.7	35.4	70.2	40.9	49.0	90.0
(利益率)	(3.1%)	(2.7%)	(2.9%)	(3.6%)	(3.6%)	(3.6%)

SHARP

18

四半期 連結業績概要

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
売上高	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8	595.1	642.5
営業利益	17.1	23.4	29.7	19.7	24.8	22.2	21.2
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.3%)	(4.6%)	(3.7%)	(3.3%)
経常利益	17.1	23.9	29.9	18.2	21.2	21.9	18.8
(利益率)	(3.4%)	(3.9%)	(4.2%)	(3.0%)	(4.0%)	(3.7%)	(2.9%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	14.4	20.2	20.6	14.8	19.2	21.7	22.1
(利益率)	(2.9%)	(3.3%)	(2.9%)	(2.5%)	(3.6%)	(3.7%)	(3.4%)

SHARP

19

セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度
	上期	下期	通期	上期
スマートホーム	290.6	317.3	607.9	300.6
スマートビジネスソリューション	154.4	163.6	318.0	158.4
IoTエレクトロデバイス	200.4	304.0	504.5	250.8
アドバンスディスプレイシステム	521.6	564.9	1,086.5	458.2
小計	1,167.2	1,349.9	2,517.2	1,168.1
調整額	-52.0	-37.8	-89.9	-39.1
合計	1,115.1	1,312.1	2,427.2	1,129.0

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

20

セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度
	上期	下期	通期	上期
スマートホーム	20.4 (7.0%)	23.2 (7.3%)	43.7 (7.2%)	23.3 (7.8%)
スマートビジネスソリューション	9.7 (6.3%)	12.2 (7.5%)	21.9 (6.9%)	9.0 (5.7%)
IoTエレクトロデバイス	2.7 (1.4%)	0.5 (0.2%)	3.3 (0.7%)	0.2 (0.1%)
アドバンスディスプレイシステム	16.3 (3.1%)	20.6 (3.7%)	37.0 (3.4%)	19.0 (4.1%)
小計	49.3 (4.2%)	56.7 (4.2%)	106.0 (4.2%)	51.6 (4.4%)
調整額	-8.7	-7.1	-15.9	-4.6
合計	40.5 (3.6%)	49.5 (3.8%)	90.1 (3.7%)	47.0 (4.2%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

21

四半期 セグメント別売上高

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
スマートホーム	130.2	160.4	148.9	168.3	150.5	150.0	178.6
スマートビジネスソリューション	70.3	84.0	77.3	86.2	76.5	81.9	79.2
IoTエレクトロデバイス	85.0	115.4	192.2	111.8	113.3	137.4	137.7
アドバンスディスプレイシステム	249.6	271.9	314.6	250.2	211.1	247.1	267.2
小計	535.3	631.9	733.2	616.7	551.5	616.6	662.8
調整額	-28.8	-23.1	-18.9	-18.9	-17.6	-21.4	-20.3
合計	506.4	608.7	714.2	597.8	533.8	595.1	642.5

※セグメント間の内部売上高又は振替高を含んでいます。

SHARP

22

四半期 セグメント別営業利益

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
スマートホーム	9.9 (7.6%)	10.5 (6.6%)	10.6 (7.2%)	12.5 (7.5%)	11.8 (7.9%)	11.4 (7.6%)	10.8 (6.1%)
スマートビジネスソリューション	3.8 (5.4%)	5.9 (7.0%)	4.1 (5.3%)	8.1 (9.4%)	3.9 (5.2%)	5.0 (6.1%)	5.9 (7.5%)
IoTエレクトロデバイス	0.9 (1.1%)	1.8 (1.6%)	4.6 (2.4%)	-4.0 (-3.7%)	0.6 (0.6%)	-0.3 (-0.3%)	2.5 (1.8%)
アドバンスディスプレイシステム	6.7 (2.7%)	9.6 (3.5%)	13.1 (4.2%)	7.4 (3.0%)	10.5 (5.0%)	8.4 (3.4%)	7.8 (2.9%)
小計	21.4 (4.0%)	27.8 (4.4%)	32.6 (4.4%)	24.0 (3.9%)	27.0 (4.9%)	24.5 (4.0%)	27.2 (4.1%)
調整額	-4.3	-4.4	-2.8	-4.3	-2.2	-2.3	-5.9
合計	17.1 (3.4%)	23.4 (3.9%)	29.7 (4.2%)	19.7 (3.3%)	24.8 (4.6%)	22.2 (3.7%)	21.2 (3.3%)

※()内の数字は営業利益率です。

SHARP

23

設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2017年度			2018年度		
	上期	下期	通期	上期	下期差引	通期予想
設備投資	73.2	46.1	119.3	27.8	72.2	100.0
内:ディスプレイ	16.7	18.7	35.5	9.2	30.8	40.0
減価償却費	28.8	39.6	68.4	34.5	45.5	80.0
研究開発費	50.2	50.2	100.5	53.8	56.2	110.0

(単位:円)

平均為替レート	2017年度			2018年度	
	上期	下期	通期	上期	下期予想
米ドル	110.07	109.64	109.86	109.27	105.00
ユーロ	124.79	131.62	128.20	128.34	128.00

SHARP

24

四半期 設備投資・減価償却費等

(単位:十億円)

	2017年度				2018年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
設備投資	18.8	54.4	33.7	12.3	11.3	16.4	14.7
内:ディスプレイ	3.2	13.5	11.0	7.7	4.4	4.7	8.3
減価償却費	14.1	14.6	19.4	20.1	17.1	17.3	18.9
研究開発費	28.7	21.5	30.8	19.3	30.4	23.3	32.0

(単位:円)

平均為替レート	2017年度				2018年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
米ドル	110.10	110.04	111.98	107.30	108.07	110.46	111.90
ユーロ	120.69	128.88	131.51	131.73	128.56	128.12	127.28

SHARP

25

SHARP

Be Original.

